

## 第9回 TIAナノグリーン・サマースクール開催報告



**山本 泰彦 教授**  
筑波大学数理物質系

環境・エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが8月31日から9月3日の日程で開催されました。実施・運営を行った山本泰彦教授（筑波大学数理物質系）にお話を伺いました。

TIA 連携大学院サマー・オープンフェスティバル2021の一環として、第9回TIANANOグリーン・サマースクールが開催されました。今回も前年に引き続き、オンラインでの実施となったため、恒例の国立研究開発法人 物質・材料研究機構(NIMS)の施設見学は行えませんでした。本スクールはナノグリーン分野の研究に興味をもつ大学院生および社会人を対象に開校されており、今回の参加者は筑波大学院生9名でした。

今回は、従来よりも1日長い日程で、4日間に渡るゆったりとしたプログラムで実施しました。講義では、世界第一線で活躍する7名の先生方を講師としてお招きし、それぞれ90分間で化学変換、先端計測、光機能性有機材料、放射光による分析、太陽電池など、ナノグリーン分野に関連する基礎から最先端の応用研究までの幅広い内容をお話いただきました。講義における参加者からの積極的な質問から、ナノグリーン分野に対する参加者の関心の深さが伺えました。なお、参加者には、「グリーンイノベーションに関する見識や提案」についてのレポートの提出を課しました。講義以外の内容としては、1日目に開催された始業式では、参加者のオンラインでの自己紹介に続いて、集合写真を撮影しました。撮影した写真は、今後の広報活動に利用させていただく予定です。

また、3日目に開催されたプレゼンテーションセッションでは、参加者が事前に提出した研究概要に基づいて、10分間の発表を行いました。発表後の質疑応答は、今回のスクールのアドバイザーに就任していただいた2名の先生方からの活発なコメントによって、大いに盛り上がりました。多くの発表者は、アドバイザーの先生方からの指摘や提案の価値を十分に認識した上で適切に回答していましたので、今回の発表は自分自身の研究を進める上でのヒントを得る有益な機会になったのではないかと思います。

最終日の講義終了後に行われた修了式では、参加者全員に修了証が授与されました。そして、研究概要、研究発表およびレポートが優秀と認められた3名の参加者には、奨励賞が授与されました。今回も、参加者の講義およびプレゼンテーションセッションへの積極的な取り組みが印象的でした。特に、参加者のオンラインでのプレゼンテーションのスキルの高さには目を見張るものがあり、昨今の状況で学生はオンラインでの発表に日頃から慣れ親しんでいることを実感しました。本スクールにおける4日間の経験が、研究者としての参加者の成長に役立つことを期待しています。



TIANANOグリーン・サマースクール  
2021



Microsoft Teams



始業式時の集合写真

開催日	2021年8月31日(火)～9月3日(金)
会場	Microsoft Teamsによるオンライン授業
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究科、エネルギー物質科学研究センター(TREMS)
共催	物質・材料研究機構(NIMS)
構成	講義7コマ+プレゼンテーションセッション(レポート提出)
参加者数	9名(大学院生 9名)
修了証	9名に授与
受賞者	奨励賞(プレゼンテーション+レポート)3名

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。

<https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp  
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1